

# 北見工業大学学報

第297号 (2020年1月号)

## 目 次

年 頭 挨 拶	令和2年学長年頭挨拶……………	3
入 試	令和2年度編入学試験(第2次募集)の実施……………	5
	令和2年度推薦入試の実施……………	5
	令和2年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試の実施……………	6
	令和2年度大学入試センター試験の実施……………	6
	令和2年度ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試の実施……………	6
研 究 助 成	令和元年度外部資金の受入状況……………	7
人 事 諸 報	人事異動……………	8
	業界研究イベントを開催……………	9
	留学生交流の夕べを開催……………	10
	ダイバーシティに関する講演会を開催……………	11
	おおぞらキッズ朝活事業ウインタースクールへ協力……………	12
	株式会社NTTドコモと連携協定を締結……………	13
	ひらめき☆ときめきサイエンス実施……………	14
	むかわ町と北海道胆振東部地震の災害復興に関する包括連携協定を締結……………	15
	冬休み親子工作教室を開催……………	16
	小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施……………	17
	人材育成事業成果報告会「地域を彩る食物語」を開催……………	18
	留学生スキー研修を実施……………	19
	札幌モーターショー2020で技術展示……………	20
3大学合同セミナーin帯広畜産大学に参加……………	21	

目 誌	12月・1月	22
-----	--------	----

## = 年頭挨拶 =

### 令和2年学長年頭挨拶

皆さん、新年明けましておめでとうございます。年頭にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、皇太子であられました徳仁親王殿下が、第126代天皇に即位されまして、年号が平成から令和に変わるという我が国では大きな変化がございました。大きな変化と言いますと、本学では、一昨年から進めております、帯広畜産大学、そして小樽商科大学との経営統合を目指した連携が本格化して参りました。この連携につきましては教職員の皆様のご協力によりまして、着実に良い方向に進捗していると理解しております。この場をお借りしまして改めまして感謝申し上げます。

そして、昨年、三大学連携に関わる国立大学経営改革促進事業フォローアップヒアリングが有識者によって行われました。その際に、本学の取組が非常に高い評価をいただきまして、北海道の三大学の取組が全国のモデルケースになりつつあるという状況でございます。今年度内にはこれまでの進捗状況、そして経営統合後の新法人の経営ビジョン等を含めた中間まとめを作成しまして社会に公表する予定でございます。教職員の皆様に対しましてもきめ細やかに情報提供をしていきたいと考えております。本年も、昨年同様に、是非ご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

令和2年度予算につきましては、昨年の12月20日に閣議決定が行われまして、運営費交付金の全体額は前年度比99億円増の1兆1,070億円が確保されたところです。増加の主な要因としましては、高等教育修学支援新制度の授業料減免分が新規で264

億円計上されたことによるものでございます。本学分につきましては、教育研究組織整備としまして教員人件費1人分が新規で措置されているところでございます。

また、基盤的設備等整備分として概算要求を行ってございました「積雪寒冷環境を再現可能な総合防災実験システム」が12月に令和元年度補正予算として採択されており、1億円強の予算が見込まれているところでございます。なお、評価分を含めた個別の大学毎の予算額につきましては、1月下旬頃に示される予定となっております。

施設整備関係では、基幹・環境整備で要求してございました学科棟及び学生寮周辺の道路整備が完成したところです。現在工事を進めております情報処理センターの改修工事は2月20日、そして防災設備の整備は3月10日の完成を目指しているところです。

新年度に向けましては、文部科学省に令和2年度施設整備費として要求してございました東陵町宿舎周辺の構内道路等整備について予算の内示がございました。今後も、改修工事等によりまして、皆さまにはご不便をお掛けすることもあるかと思いますが、ご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

学術・研究におきましては、昨年3月に重点研究分野を推進する組織の研究水準を検証し、さらなる研究の質の向上に繋げるため、学外有識者による外部評価を行い、日頃の皆様の研究活動が非常に高く評価されたところでございます。

5月には、積雪寒冷地域における防災力向上に貢献するという目的で、「地域と歩む防災研究センター」を設置し、本学の重点

研究分野を担う4つの研究推進センター体制を構築いたしました。現在、これらのセンターには6割以上の教員の皆様が所属されている状況でございますが、さらなる研究推進のために、より多くの教員の皆様に積極的に参画していただきますよう、よろしく願いいたします。

一方、学生支援においては、私が所信表明しておりました、キャリアアップ支援センターを本年4月に設置することを決定いたしました。このセンターでは、学年進行も含めた進学支援や就職支援を統合しまして、教職員が一体となって学生の相談に対応する体制をとり、キャリアアップ支援だけにとどまらず、留年や中退者数の減少につながる役割を担うことも期待しているところでございます。教職員の皆様には、新たな業務負担をおかけすることもあると予想されますが、是非、本学の学生支援活動にご協力のほどよろしく願いいたします。

さて、1月18日、19日には最後の大学入試センター試験、また3月12日には本学の個別学力検査が実施されます。本年におきましても事故等のないよう、ご協力をお願いいたします。

また、2021年度工学部入学者選抜におきましては、総合型選抜を導入いたします。このような選抜方法は18歳人口が減少する中、今後ますます重要視されるものと予想しているところでございます。

大学入学共通テストの実施準備につきましては、皆様にも色々ご尽力いただきましたが、英語認定試験の導入延期、そして国語・数学の記述式問題の導入が見送られるという事態が起きました。ニュースでも報道されていましたが、記述式問題につきましては1年ほどさらに議論を深めてより良い方式を検討するというところでございます。ますます、色々な対応を瞬時に行うということが求められる可能性がございますので、その際には、さらなるご協力をよろしく願いいたします。

最後となりますが、今年は、本学が創立60周年を迎える年でもございます。創立60周年記念事業としましては、9月に予定しております記念式典のほか、記念祝賀会、ノーベル賞受賞者による記念講演、そして国際ワークショップを開催するとともに、ごようほいた五島慶太氏の胸像移設や記念誌発行を計画しております。

大きな節目を迎え、本学が更なる躍進を遂げられますよう、本年もまさに「ワンチーム」で大学を運営していきたいと考えております。ご協力を是非お願いいたします。

それでは、皆さまがご家族ともども、この1年心身ともに健やかに暮らせる年でありますよう、心より祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

学長 鈴木 聡一郎

## = 入試 =

### 令和2年度編入学試験（第2次募集）の実施

（入 試 課）

令和2年度編入学試験（第2次募集）を実施し、12月11日（水）に合格発表を行いました。  
合格者数等については下表のとおりです。

学 科	推薦入試				学力試験入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	募集人員	志願者	受験者	合格者
地球環境工学科	2	1	1	1	若干人	1	1	0

### 令和2年度推薦入試の実施

（入 試 課）

11月29日（金）、令和2年度推薦入試を実施し、12月11日（水）に合格発表を行いました。  
両学科の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	受験者	合格者
地球環境工学科	48	57	57	48
地球環境工学科地域マネジメント工学コース特別枠		0	0	0
地域未来デザイン工学科	55	89	89	60
地域未来デザイン工学科地域マネジメント工学コース特別枠		4	4	4
合 計	103	150	150	112

## 令和2年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試の実施

(入 試 課)

令和2年度モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試を実施し、12月11日(水)に合格発表を行いました。両学科の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	合格者
地球環境工学科	若干人	7	5
地域未来デザイン工学科		11	8
合 計		18	13

## 令和2年度大学入試センター試験の実施

(入 試 課)

令和2年度大学入試センター試験が1月18日(土)、19日(日)の両日に実施されました。本学会場の志願者数は672人となりました。

## 令和2年度ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試の実施

(入 試 課)

令和2年度ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試を実施し、1月23日(木)に合格発表を行いました。両学科の合格者数等については下表のとおりです。

学 科	募集人員	志願者	合格者
地球環境工学科	若干人	4	0
地域未来デザイン工学科		2	0
合 計		6	0

= 研究助成 =

令和元年度外部資金の受入状況

(研究協力課)

	令和元年12月1日から 令和2年1月31日までの合計		前号までの合計		令和元年度累計	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
共同研究	3	2,550	117	98,100	120	100,650
受託研究	2	5,417	12	34,296	14	39,713
奨学寄附金	8	10,091	65	56,357	73	66,448

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
2.1.1	(新規採用)	(ふじい とおる) 藤井 亨	工学部地域国際系教授



## = 諸報 =

### 業界研究イベントを開催

(学 務 課)

11月から12月にかけて、学内で2つの業界研究イベントを開催しました。

11月23日(土)は、本学講堂において「北海道企業による業界研究イベント」を開催しました。本イベントには道内の企業16社、本学学生延べ346人が参加し、学生は企業担当者の話に熱心に耳を傾けていました。

また、12月14日(土)、21日(土)の2日間、本学講義室において「合同企業研究会」を開催しました。本研究会は、午前・午後のそれぞれ冒頭に実施される全体説明会で、各企業が自社をPRするプレゼンテーションを行った後、各講義室で1社あたり

3回の研究会を行い、学生が1日最大6社を受講する形式で実施しました。また、お昼には情報交換会が開かれ、企業担当者、就職担当教員、学生等が参加し、就職に関する様々な話が交わされました。2日間の参加企業数は71社、参加学生数は延べ1,334人となりました。

どちらのイベントでも参加学生が積極的に担当者と交流する姿が見られ、「様々な業界について知ることができた」、「あまり興味を持っていなかった業界にも目を向けるきっかけになった」との声がありました。

今後2月には、4日間に渡る学生と企業との交流イベントを開催する予定です。



北海道業界研究イベントの様子



合同企業研究会(1分半プレゼン)の様子



合同企業研究会(研究会)の様子



合同企業研究会(情報交換会)の様子

## 留学生交流の夕べを開催

(国際交流センター)

12月11日(水)、昨年に引き続きシャンデリアが輝く豪華な会場で「留学生交流の夕べ」を開催しました。

恒例行事である「留学生交流の夕べ」は、留学生が日頃よりお世話になっている方々を招待し交流を行うものです。今年度の卒業・修了予定者は学部10人、大学院博士前期課程10人、大学院博士後期課程5人の合計25人となっており、当該留学生の他、交流を深めてきた日本人学生、教職員、奨学金等でサポートいただいた各ロータリークラブ、国際ソロプチミストの皆様、ボランティアで日本語を教えていただいた市民の皆様など、総勢150人ほどが出席し、盛大な会となりました。

卒業生を代表して、博士後期課程 医療工学専攻3年、中国出身のバイミンシュエさんから「日本語を覚えるために学内の先生や友人の他、地域の皆さんが親切にしてくれたことが多くの励みになりました。自分の研究が世界中の多くの人の助けになること

で、ノーベル賞を目指します。」などと会場の笑いをとっていました。そして、お世話になった方々への感謝やたくさんの思い出を胸にそれぞれの道を進んでいきたいとスピーチしてくれました。

アトラクションでは、14カ国の留学生によるお国紹介がありました。うちわに国旗を貼り付けて母国について紹介する留学生の姿に、会場の皆さんは熱心に耳を傾けていました。その後、インタビュアーから会場の皆さんにもマイクが向けられ、参加者が一体感に包まれたひとときを過ごしました。

北見の地で専門的知識を学び、皆様からたくさんの思い出を受け取った留学生たちは、卒業後も母国と日本の架け橋として大きく羽ばたいてくれると期待しています。

多くの皆様の温かいご支援に改めて感謝するとともに、今後も恒例行事としてこの会を継続していきたいと思えます。



卒業生・修了生を代表してスピーチ



留学生によるお国紹介

## ダイバーシティに関する講演会を開催

(総務課)

12月17日(火)、科学技術振興機構(JST)副理事 渡辺美代子氏を講師に迎え、ダイバーシティ推進への理解を深め、大学における人的資源の多様性を組織に活かす意識を醸成することを目的としたダイバーシティに関する講演会を開催しました。

「ダイバーシティが拓く新たな科学技術」

と題して、科学技術におけるジェンダーの新しい流れや、これからの社会の問題などについて講演が行われ、学長、理事をはじめ多数の教職員が熱心に聴講し、ダイバーシティへの理解を深め、意識改革を促進する貴重な機会となりました。



JST 副理事 渡辺美代子氏の講演の様子

## おおぞらキッズ朝活事業ウィンタースクールへ協力

(研究協力課)

12月23日(月)、24日(火)の両日、大空町教育委員会主催「おおぞらキッズ朝活事業ウィンタースクール」が開催され、本学から機械電気系ゾイ助教と楊亮亮助教が講師として協力しました。

実施したテーマは「乾電池で簡単なリニアモーターカーを自作」で、23日は女満別小学校、24日は東藻琴小学校を会場に、それぞれ約30人の児童が参加しました。

前半は磁石と電気の関係やリニアモーターカーが走行する原理について動画を参考にしながら授業を行い、後半は乾電池と磁

石を使ってリニアモーターカーの『車両』を作り、銅線で作ったコイル状の『レール』を走らせる実験を行いました。

銅線を木の棒に巻き付けて、コイル状にする作業は大変そうでしたが、講師の先生や補助の本学学生に手伝ってもらいながら『レール』を完成させて『車両』が素早く動いたときには歓声が上がっていました。

本学は今後も次代を担う世代の科学への興味・関心を引き出すため、こうした地域貢献活動を継続する考えです。



リニアモーターカーの説明をするゾイ助教



電池と磁石で作った『車両』の素早い動きに驚く参加児童



## 株式会社 NTT ドコモと連携協定を締結

(学術推進機構)

12月25日(水)、株式会社NTTドコモ(北海道支社 櫻井俊明支社長)と本学は、5G(第5世代移動通信システム)を活用した防災・一次産業分野における研究力強化に関する連携協定を結びました。

本学では従前から、地域と歩む防災研究センター(川尻峻三センター長)、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター(村田美樹センター長)を中心として、様々な情報通信を活用した防災・一次産業における研究を推進してきましたが、今後は「高速・大容量・低遅延・多数接続」という5Gの特性を活かし、ドローン等を使用した災害現場の状況のリアルタイム把握や、スマ

ート農業分野における無人トラクターの活用に向けた取組み等を行っていく予定です。

櫻井支社長と鈴木聡一郎学長による調印の後、川尻センター長、村田センター長から5Gを活用した研究予定について説明があり、その後、実験室に移動して河川流速解析のデモンストレーションが行われました。この間、複数のメディアから質問が飛び交い、本協定への関心の高さが感じられました。

本学は、今春から主にオホーツク地域創生研究パーク(旧北見競馬場)において各実験を開始する予定です。



櫻井支社長(左)と鈴木学長(右)



村田センター長による研究予定の説明



川尻センター長による研究予定の説明



デモンストレーションの様子

## ひらめき☆ときめきサイエンスを実施

(研究協力課)

12月26日(木)、本学において、小学校5、6年生及び中学生を対象に、日本学術振興会から科学研究費補助金の助成を受けて行っている研究の成果を体験してもらうプログラム、ひらめき☆ときめきサイエンス「光とナノのサイエンス～ホログラムが見えた!～」を実施しました。

参加者は、情報通信系 酒井大輔准教授から光の性質やホログラムについて講義を受けた後、実際にホログラムを撮影する実験を行いました。実験後は、酒井准教授や大学生と一緒に食堂で昼食をとり、交流を深めていました。

昼食後には、原子間力顕微鏡でホログラムの観察を行い、ホログラムがどのようなナノ構造をしているのか確かめ、「光ナノインプリント」という手法を用いてホログラムを作成しました。プログラムを終えた後、参加者たちには酒井准教授から修了証書が授与されました。

参加者からは「これからはもっとこういうイベントにも参加したい。」「初めて知ることがたくさんあり、とても楽しむことができた。」などの感想が寄せられ、科学への理解を深めながら楽しんでいました。



酒井准教授の講義を熱心に受ける参加者



大学生と交流する参加者



ホログラムを作成する参加者



参加者全員による集合写真

## むかわ町と北海道胆振東部地震の 災害復興に関する包括連携協定を締結

(地域と歩む防災研究センター)

12月26日(木)、むかわ町(竹中喜之町長)と本学地域と歩む防災研究センター(以下 SAFER、川尻峻三センター長)は、むかわ町の道の駅「四季の館」において、「むかわ町と北見工業大学地域と歩む防災研究センターによる北海道胆振東部地震の災害復興に関する包括連携協定」を締結しました。

本協定は、平成30年北海道胆振東部地震で被災したむかわ町が策定した「むかわ町復興計画(令和元年7月策定)」の実施に際して、むかわ町と本学が包括的な連携のもと相互に協力し、地域社会の発展と人材育

成、学術の振興に寄与することを目的としたもので、締結式には関係者の他、むかわ町民の方も多く出席していただきました。

今後、SAFERは、地盤調査結果を反映した新しい防災庁舎の整備位置の検討や、SNSを利用した住民・行政への災害情報伝達手法の検討等をむかわ町と連携して行うとともに、地域住民の防災意識向上を目的としたイベントや、役場や地域の防災担当者向けの講習会の開催等についても取り組んでいく予定です。



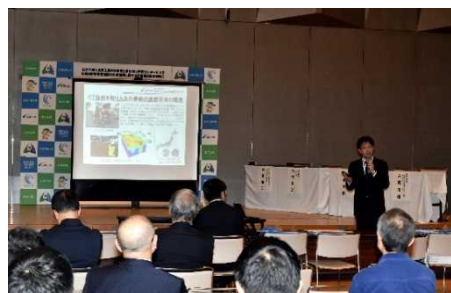
川尻センター長(左)と竹中町長(右)



関係者による記念写真



調印後、行われた研究紹介の様子



研究紹介する宮森副部門長



## 冬休み親子工作教室を開催

(技 術 部)

1月8日(水)～11日(土)の4日間、冬休み親子工作教室を開催いたしました。

今回のテーマは、①ガラス彫刻、②電子工作、③自分だけの宝箱、④アクセサリタワーの4種類です。いずれも2～3時間ほどかかる作業ですが、早い親子では1時間半ほどで完成し、皆さんの出来映えもすばらしいものでした。

児童のアンケート結果からは「とても楽しかった(90%)」、「楽しかった(10%)」との好評がありました。保護者の方からは「とても丁寧に対応していただきありがとうございました。本人も楽しんでいた様で、時おり目が輝いておりました」、「親子でわちゃわちゃ言いながら楽しくできました。知らない間に色々出来るようになっていたので、子供の成長を感じられて、とて

も良い時間が過ごせました」、「工作が苦手な子が最後まで頑張れる機会をありがとうございました」、「北見工大ならではのテーマで、保護者も一緒にとっても楽しく、多くのことを学ぶことが出来ました」など、スタッフの疲れも吹き飛ばすお言葉もあり、後日、丁寧なお礼状もいただきました。

例年、申込数が定員を上回りお断りしなければならぬ状況であったため、今回は限界まで定員を増やしましたが、それでも定員を上回りました。興味を持って申し込まれたのにもかかわらず、参加することができなかった方々にお詫び申し上げます。

最後になりますが、北見市教育委員会、研究協力課、11号館の教員の皆さま並びに関係各位に深く感謝申し上げます。



ガラス彫刻



電子工作



自分だけの宝物



アクセサリタワー



## 小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施

(研究協力課)

1月9日(木)、北見市教育委員会との連携実施事業として、本学化学学生実験室を会場に北見市内の小中学校教諭を対象とした理科実験研修を実施しました。

本事業は、北見市教育委員会、公益社団法人応用物理学会北海道支部及び本学が共同実施しているもので、理科実験について理解を深めることにより、教育効果を高めつつ安全な実験を行うことを目的としています。

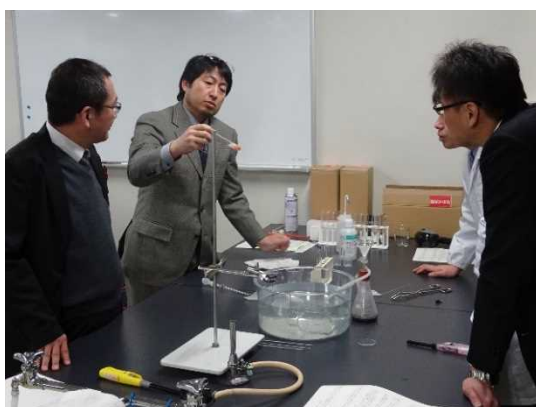
当日は小学校教諭1人、中学校教諭6人、計7人の参加があり、本学技術部職員が講師となって「気体の製法と性質」と題して、①基本的な3気体～酸素・水素・二酸化炭素について、②窒素とその化合物～アンモニア・窒素酸化物について、それぞれ実験を行いました。

教科書に載っている過酸化水素水から酸素を発生させる基礎的な実験であっても、

ニンジンやみかんの皮など身近なものを触媒として使用することで児童・生徒の興味を引き出す方法や、化学反応が緩やかであるため授業時間内に反応が終わらない場合はドライヤーで温める方法、市販されているアルミ箔の皮膜をアルカリ性の溶液で除去することで、より化学反応を観察しやすくする方法などが紹介され、実際の授業に沿った実践的な内容を取り扱いました。

研修の中で参加者から「ドライヤーによる加熱はぜひ取り入れたい」、「緩やかな反応から激しい反応を見せることで興味を引き付けることができそうだ」、「別の触媒を使って同様の反応を示すか比較して観察させたい」といった感想があり、大変有意義な研修となりました。

本学では地域における教育支援の一助となるよう、こうした活動を継続していきたいと考えています。



ニンジンを使った実験を観察



ドライヤーを使って化学反応を加速させる様子

## 人材育成事業成果報告会「地域を彩る食物語」を開催

(社会連携推進センター)

1月15日(水)～20日(月)の6日間、コミュニティプラザパラゴを会場に、人材育成事業北見地区成果報告「地域を彩る食物語」を開催しました。

北見市産学官連携推進協議会が主催、本学も共催機関として実施している本イベントは、北見市と姉妹都市締結をしている高知市の「高知物産展」と同時開催され、今年で10年目を迎えました。

今回は長崎大学、帯広畜産大学、東京農業大学、日本赤十字北海道看護大学、本学の5大学と、オホーツク地域振興機構、北見市雇用創造協議会の2機関が参加しました。会場では、各大学等が取り組む商品開発の成果発表として、開発した商品の試食・販

売や研究紹介のパネル展示が行われました。

また、初日にはサテライトオフィス北見を会場に、工学的・専門的知識に基づく「食」をキーワードとした工学的農業クリエーター育成事業の本学受講生や他機関の出展者が成果報告を行いました。その後、小樽商科大学の北川泰治郎教授による講演と情報交換会が行われ、参加者の交流を深める場となりました。

本イベントは、参加大学・機関とともに「食と健康」、「人材育成」をキーワードとする地域おこしの意識を広く共有し、それぞれの活動を今後も発展させられる場として、今後も継続していく考えです。



受講生による成果報告の様子



パネル展示・販売会の様子

## 留学生スキー研修を実施

(国際交流センター)

1月17日(金)、毎年恒例の留学生スキー研修をノーザンアークリゾートスキー場にて実施しました。

本研修は、ウインタースポーツ体験を通じて、寒冷地域の自然環境と留学生相互の親睦を図るという目的で毎年1月に行っています。今年はスキー初心者の留学生20人(4か国)が参加しましたが、留学生の参加人数が昨年より多かったことに比べ、スキー場の雪は例年になく少なめで、人工降雪機によってつくられたスキーコースでの実習となりました。

3人のインストラクターによる親身な指導のおかげで、最初はスキーを履いて止まっていることもできなかった留学生はみるみる上達し、午前中のレッスンが終わる頃にはターンもできるようになりました。

午後からはリフトに乗せてもらい、美し

い景色を眺めながらのスキーを楽しむことができました。雪の降らないマレーシアから来た学生は「スキーをしていると汗をかいて、寒い冬を忘れてしまうほど暑かった。スキーレッスン後に食べたアイスクリームは最高だった。」と笑顔で話していました。中国の留学生は、「北見に来て3年経つが、初めてスキーに挑戦した。こんなに楽しいスポーツとは思わなかった。ぜひスキーをやりたい!」と話していました。

学期末試験を前に、美しい冬の景色に囲まれてスキーを楽しんだ留学生は、リフレッシュをして元気になった様子でした。インストラクターをはじめ、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。

本学の特徴ある冬の行事として今後も継続していきたいと思えます。



初めてのスキーに戸惑う留学生たち



インストラクターと一緒に全員集合

## 札幌モーターショー2020 で技術展示

(社会連携推進センター)

1月17日（金）～19日（日）の3日間、札幌ドームを会場に札幌モーターショー2020が開催されました。

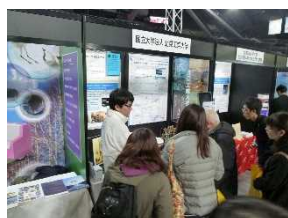
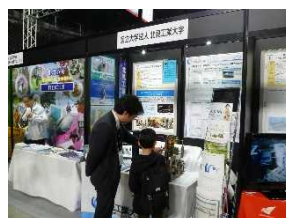
本イベントは2012年から隔年で開催されており、期間中9万人以上が来場します。本学は、会場内に設置される「北海道自動車産業ゾーン」に初回から出展しています。

北海道自動車産業ゾーンは、北海道と独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部が主催となり、北海道の自動車関連企業・団体の技術を紹介することを目的に開催されており、今回は、大学機関から北海道科学大学・北海道科学大学短期大学部、本学の2大学、そして公的試験研究機関や北海道内企業の全18機関が参加しました。各ブースにおいて、それぞれが取り組む自動車関連技術が紹介される中には、学生の手がけたハンドメイドエコカーや寒冷地仕様のEVカーなどの道内企業が創る次世代自動車の展示も行われました。

本学からは、機械電気系 林田和宏教授が

取り組む「低温条件下におけるディーゼルエンジンの始動性改善技術」の研究紹介を行い、現地では林田教授と本学大学院生の砂洞直輝さん、濁沢和樹さん（共に博士前期課程 機械工学専攻1年）が来場者への説明を行いました。研究に合わせて展示したエンジンのカットモデルには子供から大人まで多くの方が関心を寄せていました。また、北海道が製造業における女性の参画促進を目的に展開した、「ものづくりなでしこ応援プロジェクト」パネル展示には、本学から大学院生の前田優奈さん（博士後期課程 生産基盤工学専攻1年）を紹介しました。

本学のブースには、自動車の技術に興味を持つ企業の方はもちろんのこと、同窓生や在校生、在校生の父兄、さらには大学受験を控える高校生とその家族も訪れてくれました。本学の教育や研究状況について知っていただくなど、技術広報だけでなく大学広報としても価値の高い場となりました。



札幌モーターショー2020 北海道自動車産業ゾーン展示の様子



### 3 大学合同セミナーin 帯広畜産大学に参加

(社会連携推進センター)

1月25日(土)、26日(日)の2日間、帯広畜産大学産学連携センターにおいて、北見工業大学、帯広畜産大学、東京農業大学による3大学合同セミナーが開催されました。

本セミナーは国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「地域再生人材創出拠点の形成」事業から続けている人材育成事業の一環として開催されているもので、今年度は帯広市と帯広畜産大学が主催となり、講師も含めた参加者は11人となりました。本学からは「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」の受講生2人と、事業スタッフ2人が参加しました。

セミナー初日は、経営戦略の事例研修として帯広市にある株式会社ガロードの事業展開について解説が行われた後、インサイ

トマネジメントの坪井真一氏からSWOT分析手法について説明が行われました。その後、参加者はガロード社の九条ファームやキャトルシステムを見学しました。

2日目はグループに分かれてガロード社のSWOT分析を行い、今後の事業戦略を提案・発表しました。ガロード社の相談役堀江浩明氏との意見交換も行われ、会社の仕組みや市場について学ぶ貴重な機会となりました。

本セミナーは、他地域とのネットワークを構築し、社会の仕組みについて学ぶ効果的な場として重要な役割を担っています。

今後も、3大学での情報交換やスタッフ・学生の交流など、継続的な活動を行います。



3 大学合同セミナーの様子

## = 日誌 =

### 12 月

- 2日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 3日 進路選択ガイダンス
- 4日 内定者のための労働法と税のセミナー
- 6日 教務委員会
- 10日 進路選択ガイダンス、入学者選抜委員会
- 11日 教育研究評議会、留学生交流のタベ、推薦入試合格発表、編入学（第2次募集）合格発表、モンゴル科学技術大学ツイニング・プログラム入試合格発表
- 12日 発明審査委員会
- 13日 学長選考会議、経営協議会、役員会
- 14日 合同企業研究会
- 16日 学術推進機構統括会議（持ち回り）
- 17日 ダイバーシティに関する講演会
- 21日 合同企業研究会
- 25日 株式会社NTTドコモとの連携協定締結式、アドミッションセンター運営会議
- 26日 むかわ町と地域と歩む防災研究センターによる包括連携協定締結式、ひらめき☆ときめきサイエンス

### 1 月

- 6日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 9日 小中学校教諭を対象とした理科実験研修、教務委員会
- 10日 発明審査委員会
- 15日 教育研究評議会、地域を彩る食物語（～20日）
- 16日 オホーツク地元企業と北見工大就職担当教員との意見交換会
- 18日 大学入試センター試験（～19日）
- 20日 留学生のための進路選択ガイダンス、推薦入試入学手続（～24日）、私費外国人留学生入試出願受付（～24日）、大学院入試出願受付（～24日）
- 21日 進路選択ガイダンス
- 22日 研究支援室会議
- 23日 地域連携・国際交流委員会、ハノイ工科大学ツイニング・プログラム入試合格発表
- 25日 3大学合同セミナーin帯広畜産大学（～26日）
- 27日 一般入試出願受付（～2月5日）
- 28日 模擬面接
- 31日 アドミッションセンター運営会議